

法学部A方式Ⅰ日程・文学部A方式Ⅱ日程・経営学部A方式Ⅱ日程

## 3 限 選 択 科 目 (60分)

科 目	ページ	科 目	ページ
政治・経済	2～23	日 本 史	24～42
世 界 史	44～58	地 理	60～71
数 学	72～77		

## 〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 科目の選択は、受験しようとする科目の解答用紙を選択した時点で決定となる。一度選択した科目の変更は一切認めない。
4. 数学については、定規、コンパス、電卓の使用は認めないので注意すること。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

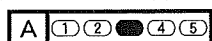
## マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

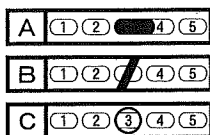
## 記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

# (日 本 史)

〔I〕 つぎのA～Dの文を読み、下記の問いに答えよ。

A 弥生時代のはじめには、北部九州に環濠集落が営まれる。そして、縄文時代にはみられなかった石製・金属製の武器が出現する。新たに成立した農耕社会<sup>a</sup>は人口増加をもたらしたが、同時に土地争いや水争い、余剰生産物をめぐる争いなど、争乱が頻発する状況をも招いたのである。各地の強力な集団は周辺のいくつかの集落を統合し、やがて各地に政治的なまとまりを形成していった。このような当時の倭人社会の様子は中国の史書にも記されている。多量の副葬品をもつ甕棺墓や大型の墳丘墓に葬られたのは、こうした集団をまとめた支配者やその家族たちであったとみられている。

B 4世紀後半に高句麗が南下政策を進めると、朝鮮半島内部の緊張状態が高まった。加耶諸国と密接な関係を保ってきた倭国は、百済などとともに騎馬民族の高句麗と争うこととなり、乗馬の風習のなかった倭人たちも騎馬技術を学んだ。<sup>c</sup>好太王碑文には、倭が高句麗と交戦したことが記されている。こうした状況を受けて古墳<sup>d</sup>の副葬品も変化し、5世紀になると馬具や馬を用いた戦いを前提とした武器・武具が目立つようになった。また、戦火を逃れた渡来人たちがさまざまな技術や文化を倭国に伝えた。

- C 律令体制下では東北地方の各地に城柵が設置されていった。城柵には行政的な役所の機能が付与され、その周辺に関東地方などから柵戸を移住させて開拓に従事させ、一帯には律令国家による支配が浸透していった。しかし、いったんは帰順した蝦夷の豪族である ① が780年に反乱を起こし、東北地方ではこれ以後三十年以上にわたって戦争があいついだ。789年には胆沢地方の ② から蝦夷を制圧しようとした ③ 率いる政府軍が大敗した。そののち征夷大將軍に任じられた ④ らが胆沢城を築くとともに ② を帰順させた。
- D 9世紀末から10世紀にかけて、地方豪族や有力農民は自らの勢力を維持・拡大するために武装するようになり、各地で紛争が起こった。政府もその鎮圧に乗り出したが、 ⑤ や ⑥ に任じられた者のなかには、現地でそのまま在庁官人などとして残り、やがて有力な武士となる者もあらわれた。武士は一族や郎党をひきいて鬭争をくり返し、次第に連合体をつくるようになり、武士団を形成していった。東国に勢力を築いた桓武平氏のうち、平将門は国司と対立するようになり、939年に反乱を起こした。また、もと伊予の国司であった藤原純友も反乱を起こし、伊予の国府や大宰府を攻め落とした。これら東西で起こった反乱を承平・天慶の乱という。

問1 下線部 a に関連して、農耕社会に特徴的にみられる石器として不適切なものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 太型蛤刃石斧

イ 石包丁

ウ 扁平片刃石斧

エ 石匙

## 日本史

問2 下線部 b について、当時の中国の史書の記述として正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 『漢書』地理志によると、倭人集団は30余りの国に分かれており、楽浪郡に定期的に遣使していた。

イ 『後漢書』東夷伝によると、後漢の桓帝から靈帝にかけての時期に倭人集団の間で戦乱が続いていた。

ウ 『魏書』東夷伝倭人条によると、倭人集団は100余りの国に分かれて争っていたが、女王卑弥呼の共立によって争いはおさまった。

エ 『宋書』倭国伝によると、107年に倭国王帥升等が生口160人を献上して宋に対して服属を願い出ている。

問3 下線部 c について、高句麗に関する記述として誤っているものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 高句麗は紀元前1世紀に中国東北部からおこり、しだいに朝鮮半島北部に領土を広げていった。

イ 高句麗は313年に西晋の支配下にあった楽浪郡を滅ぼした。

ウ 高句麗は6世紀末に中国を統一した隋とは協調関係にあり、その庇護のもとで百済を圧迫した。

エ 高句麗は668年に唐と新羅の連合軍によって滅ぼされた。

問4 下線部 d について、古墳に関する記述のうち正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 前期の古墳には人物埴輪や動物埴輪などの形象埴輪がさかんに樹立された。

イ 中期の近畿地方の古墳は前期に比してその規模をいちじるしく減じている。

ウ 後期には朝鮮半島系の横穴式石室が一般化し、多量の土器の副葬も開始された。

エ 7世紀中頃の近畿地方では、竹原古墳などの装飾古墳が築造されていた。

問5 下線部 e に関連して、城柵に関する記述として正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 蝦夷に対する政策の拠点として、律令制定に先立つ7世紀半ばには日本海側に淳足柵・磐舟柵が設けられていた。

イ 8世紀には多賀城が築かれ、平安時代の終わりまで鎮守府として機能した。

ウ 蝦夷の抵抗が激しかったため、日本海側では最上川以北に城柵が設置されたのは9世紀中頃になってからのことである。

エ 仙台平野には多賀城のほかに志波城や桃生城が築かれ、9世紀には東北経営の拠点がほぼ完成した。

問6 空欄  ～  に入るもっとも適切な人名の組み合わせを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア ① 阿弋流為                      ② 伊治些麻呂

③ 坂上田村麻呂                  ④ 紀古佐美

イ ① 阿弋流為                      ② 伊治些麻呂

③ 紀古佐美                      ④ 坂上田村麻呂

ウ ① 伊治些麻呂                    ② 阿弋流為

③ 坂上田村麻呂                  ④ 紀古佐美

エ ① 伊治些麻呂                    ② 阿弋流為

③ 紀古佐美                      ④ 坂上田村麻呂

問7 空欄  ・  に入るもっとも適切な用語の組み合わせを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア ⑤ 検田使              ⑥ 押領使              イ ⑤ 押領使              ⑥ 追捕使

ウ ⑤ 追捕使              ⑥ 按察使              エ ⑤ 按察使              ⑥ 検田使

日本史

問8 下線部 f について、このとき藤原純友を討って反乱を鎮圧した人物を、以下のア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 源経基            イ 源満仲            ウ 源頼光            エ 源頼信

問9 問題文 B に関連して、5世紀になると倭の五王が中国王朝にあいついで遣使するが、その背景と結果について80字以内で説明せよ。句読点も1字に数える。算用数字は1マスに2字記入してもよい。

下書き用(横書き, 20字×4行=80字)→


〔Ⅱ〕 つぎの文章を読んで、下記の問いに答えよ。

中世の公家や武家は、政治の遂行に際して、従来とは異なる様式の公文書を用いた。まず公家では、天皇の意向を伝える文書の一つとして、 が用いられた。たとえば1183年、源頼朝に対して東海道・東山道の支配権を認めた「寿永二年十月  」は、形式的には<sup>a</sup>後鳥羽天皇の意向を伝える体裁であったと考えられている。<sup>b</sup>

中世とくに発達したのが、奉書という様式の公文書である。奉書は、事実上の差出者が、自分の意向を配下の者に伝えて出させるもので、事実上の差出者の身分に応じて、異なる名称で呼ばれた。たとえば、事実上の差出者が、天皇であれば  ，上皇であれば  ，公卿であれば御教書ということになる。とくに、建武の新政の時期には、<sup>c</sup>後醍醐天皇によって多くの  が出された。

また、中世には、奉書のように個人からではなく、家に設置された機関からも新しい様式の公文書が出された。すなわち、公家では、上皇がひらいた院庁、<sup>d</sup>摂関家をはじめとする公卿がひらいた政所から、それぞれ院庁下文、政所下文が出された。<sup>e</sup>院政がおこなわれた時期には、 や院庁下文が数多く出され、政治上大きな効力を持つようになった。

一方、武家では、鎌倉幕府を開いた源頼朝が、公家にならって御教書、政所下文などの様式の公文書を出した。その後、鎌倉幕府の御教書は、事実上の差出者を将軍とし、その意向を受けて、執権と  が出すという体裁をとるものが基本となった。また、鎌倉幕府は<sup>f</sup>裁判制度を充実させ、その運用にともなって、公家にはない下知状とよばれる様式の公文書を用いるようになった。

室町幕府でも、御教書、下文、下知状などの様式の公文書が出された。御教書では、鎌倉幕府とは異なり、 が将軍の意向を受けて出すという体裁をとるものが基本となった。幕府による裁判の判決を強制的に執行する権限をあたえられた  は、そうした体裁の御教書によって幕府からの命令を伝達された。また、室町幕府では、将軍を直接の差出者とする体裁をとる公文書として、将軍家御判御教書や御内書が出されるようになった。

## 日本史

戦国時代には、領国の支配に際して、印章(印判)をおした文書を出す戦国大名があらわれた。戦国大名の印章としては、後北条氏の虎の印、織田信長の天下布武の印がよく知られる。

問1 空欄  ~  に入る語句の組み合わせとして正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 1-綸旨 2-院宣 3-宣旨    イ 1-綸旨 2-宣旨 3-院宣  
ウ 1-宣旨 2-綸旨 3-院宣    エ 1-宣旨 2-院宣 3-綸旨

問2 空欄  ~  に入る語句の組み合わせとして正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 4-連署 5-管領 6-地頭    イ 4-連署 5-管領 6-守護  
ウ 4-管領 5-連署 6-守護    エ 4-管領 5-連署 6-地頭

問3 下線部 a の人物の没後、13名の合議制が導入されたが、その最初の構成者の一員として正しい人物を、以下のア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 三浦義澄    イ 北条義時    ウ 安達泰盛    エ 畠山重忠

問4 下線部 b の人物について述べた文として正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 実父の後白河天皇から政治を引き継いだ。  
イ 上皇となった後、勅撰和歌集の編纂を命じた。  
ウ 朝廷の政治を刷新し、評定衆をおいた。  
エ 承久の乱で敗れ、佐渡に流罪となった。



問5 下線部cの人物について述べた文として正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 天皇への権限集中をはかり、大内裏の造営を計画した。
- イ 元弘の変で敗れた後、大覚寺統の光厳天皇に譲位した。
- ウ 平泉に陸奥将軍府を置き、懐良親王を派遣した。
- エ 新政の政治方針として、建武式目を発表した。

問6 下線部dに関連して、保元の乱で兄の藤原忠通と争った人物を、以下のア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 藤原通憲      イ 藤原忠実      ウ 藤原信頼      エ 藤原頼長

問7 下線部eに関連して、院政期の社会動向について述べた文として誤っているものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 山法師とよばれた興福寺の僧兵は、春日神社の神意を借りて強訴した。
- イ 白河上皇は、院の御所に北面の武士を組織するなど、院の権力を強化した。
- ウ 平忠盛は、瀬戸内海の内海海賊平定などにより、鳥羽上皇の信任を得た。
- エ 奥州藤原氏は、本拠地の平泉に中尊寺・毛越寺などの寺院を建立した。

問8 下線部fに関連して、鎌倉幕府にはじめて引付が置かれた時の将軍を、以下のア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 宗尊親王      イ 藤原頼嗣      ウ 惟康親王      エ 藤原頼経

問9 下線部gに関して、塵芥集という分国法を制定した戦国大名を、以下のア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 朝倉義景      イ 伊達政宗      ウ 朝倉孝景      エ 伊達植宗

日本史

問10 下線部 h に関して、豊臣秀吉の小田原攻めの後に切腹した人物を、以下のア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 北条氏直      イ 北条氏康      ウ 北条氏政      エ 北条氏綱

問11 下線部 i の人物が、1560年に今川義元を破った時の室町幕府将軍を、以下のア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 足利義尚      イ 足利義昭      ウ 足利義輝      エ 足利義視

〔Ⅲ〕 つぎの文章を読んで、下記の問いに答えよ。

17世紀末における全国の村数はおよそ  であった。近世の村は、太閤 検地や江戸時代初期におこなわれた検地によって、その範囲をおよそ確定<sup>a</sup>させた。これを  と言う。同時に検地では、各村について田畑・屋敷の一区画ごとの面積を算定し、あわせて田畑に等級をつけて、多くの場合その生産力をすべて米に換算して定めた。これを一村ごとにまとめたものが村高となる。村高はその村の公定生産高であり、年貢・諸役の賦課基準となった。この村高の全国平均は、一村あたり約  石<sup>b</sup>となる。こうした村は村請制のもとで、村方三役<sup>c</sup>を中心<sup>d</sup>に運営されていった。

とくに17世紀後半以降、農村においては農業技術の発展がみられた。備中鋤<sup>e</sup>が登場し、千齒扱にも工夫が施され、唐箕や千石<sup>どおし</sup>籾なども考案された。農業技術を教える農書も作られるようになり、17世紀末には  の著した『農業全書』が刊行された。19世紀には  の著した『広益国産考』や『農具便利論』が刊行されている。こうした農書から得られる知識のひとつに、収穫量を増やすための施肥があった。商品作物生産の発達にあわせて金肥も普及した。商品作物生産の活発化は、村が<sup>f</sup>都市部や遠隔地との関係を強<sup>g</sup>めることを意味した。

問1 空欄  に入るもっとも適切な数字を以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 1800                      イ 6300                      ウ 1万8000                      エ 6万3000

## 日本史

問2 下線部 a に関する説明として、正しいものを以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 従来の360歩＝1段(反)を、300歩＝1段(反)に改めたが、これは面積の計算に使われた。

イ 従来の360歩＝1段(反)を、300歩＝1段(反)に改めたが、これは容積の計算に使われた。

ウ 従来の360歩＝1段(反)を、350歩＝1段(反)に改めたが、これは面積の計算に使われた。

エ 従来の360歩＝1段(反)を、350歩＝1段(反)に改めたが、これは容積の計算に使われた。

問3 空欄  に入るもっとも適切な語句を以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 村切                      イ 村八分                      ウ 村入                      エ 村入用

問4 下線部 b に関する説明として、誤っているものを以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 小物成とは、主に山野河海などの利用に対して課せられたもので、漆年貢や海苔運上など多くの種類があった。

イ 助郷役とは、街道宿駅の常備人馬だけでは継ぎ送りに支障をきたす場合などに、おおむね宿駅近隣の村が、補助的に人馬を提供するものをいう。

ウ 高掛物とは、村高に応じて賦課されたもので、幕領の村に課された御伝馬宿入用などがあった。

エ 本途物成とは、大河川の治水工事など、莫大な出費を要する場合に、広範囲の村々に賦課されたものをいう。

問5 空欄  に入るもっとも適切な数字を以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 400                      イ 800                      ウ 1200                      エ 1600

問6 下線部cに関する説明として、正しいものを以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 年貢を納入させるための領主からの書付は、個人ではなく村宛に交付され、村の責任で一括納入された。

イ 毎年の検地の実施を村が請け負うことで、領主は常に最新の村の生産力を把握することができた。

ウ 年貢の納入にのみ関わるもので、お触れの伝達や戸籍の管理などは領主と各百姓家が直接に関わりをもった。

エ 村の支配を商人が請け負うことで、領主へ確実に年貢が納入されるようになった。

問7 下線部dに関する説明として、誤っているものを以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 地方によってそれぞれの呼び方に違いがあり、例えば名主・組頭・百姓代と呼んだ。

イ 西国では多くの場合、名主には武士身分の者たちが任じられ、毎年交代で領主から派遣された。

ウ 近世初期の名主は、地侍や浪人の系譜を引く者も多く、その土地の開発者(草分け)であることが多かった。

エ 近世後期になると入れ札によって名主を選挙する村が増加した。

日本史

問8 下線部 e に関する説明として、正しいものを以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 千石籬は、足踏み式の小型の水車で、主に灌漑に用いられた。

イ 唐箕は、箱の内部に装着した風車様のものを手で回し、その羽で粃を打つ脱穀具である。

ウ 千齒扱は、たくさんの歯のついた鎌で田から稲を一度に大量に刈り取る収獲具である。

エ 備中鍬は、刃の部分がおおむね二本、三本あるいは四本の又状になった鍬で、深耕に適していた。

問9 空欄  に入る正しい人物を以下のア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 宮崎安貞      イ 中沢道二      ウ 安藤昌益      エ 貝原益軒

問10 空欄  に入る正しい人物を以下のア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 田中丘隅      イ 青木昆陽      ウ 三浦梅園      エ 大蔵永常

問11 下線部 f に関する説明として、正しいものを以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 出羽村山では、四木のひとつである紅花から染料の紅をつくり、これを特産物とした。

イ 備後では、三草のひとつである<sup>きび</sup>黍から黍団子をつくり、これを特産物とした。

ウ 越前では、四木のひとつである木綿から木綿縮<sup>ちぢみ</sup>をつくり、これを特産物とした。

エ 阿波では、三草のひとつである藍から藍玉をつくり、これを特産物とした。

問12 下線部 g に関する説明として、正しいものを以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 下肥は、都市近郊では金肥として売買されることがあった。

イ 油粕とは、都市部の飲食業から出る廃油を原料とし、そこから油をしぼった残り粕のことである。

ウ 干鰯の最大の産地として、全国に知られていたのが、能登半島である。

エ メ粕の原料には、しばしば網に掛かるものの、食用に適さない深海魚が主に使われた。

## 日本史

### 〔Ⅳ〕 つぎの文を読んで、下記の問いに答えよ。

2015年12月、日本と大韓民国の両政府は、両国間にわたる慰安婦問題の解決<sup>a</sup>に関する政府間合意が成立したことを表明した。その中で、この問題が、最終的かつ不可逆的に解決されることを確認するとした。

敗戦後、日韓両国の政府は、1965年に日韓基本条約を結んで、関係を正常化<sup>b</sup>させた。そして、日韓請求権並びに経済協力協定において、両国の請求権問題については、完全かつ最終的に解決されたこととなることを確認するとしたのであった。したがって、これまで日本政府は、慰安婦問題についても、施策を講じつつ、その立場をくりかえし内外に表明することを基本姿勢としてきた。しかし、韓国においては日本政府のそうした対応に批判の声が上がっていた。

こうした経緯をふまえると、上記の合意は、完全かつ最終的という従来の表現に、さらに不可逆的ということばを加えたと言える。そして、それによって、政府間における慰安婦問題の解決が強調されたのである。これを、仮に、念押し外交と呼ぶこととしよう。

これに関連して、日本近代史を振り返ってみると、日本は朝鮮の独立をくりかえし公式の文書に表現し、念押し外交を展開してきたことが分かる。

たとえば、1876年に結ばれた日朝修好条規<sup>c</sup>には、朝鮮は自主の邦にして日本国と平等の権を保有すると明記されていた。いうまでもなく、日本は欧米列強の独立国としてのあり方をモデルとし、こうした表現によって朝鮮を独立国として扱ったのである。しかし、よく知られている通り、実際には、当時朝鮮は清国に朝貢する立場の国であった。

そのため、1894年8月に日本が発した清国への宣戦布告<sup>d</sup>において、朝鮮は独立国であるのに、清国は朝鮮を属邦として扱い、その内政に干渉し、朝鮮の国内問題を発端として同国に派兵したと批判したのである。そして、日清戦争に勝利した日本は、日清講和条約(下関条約)において、清国は朝鮮が完全無欠な独立自主の国であることを確認し、朝鮮から清国への貢献典礼を廃止するという表現を盛り込んだのである。これは、まさしく日清関係において朝鮮の独立を確認する念押し外交である。



日清戦争後、1896年から翌1897年にかけて、朝鮮駐在のロシア公使によって朝鮮国王が王宮を離れ、露国公使館に引き入れられ滞在するという事態が生じた(露館播遷<sup>e</sup>)。これを憂慮した日本政府は、朝鮮をめぐる日露間の緊張解消のために露国政府と交渉し、協定を結んだ<sup>f</sup>。その一つとして、1898年4月、西徳二郎外務大臣が駐日露国公使ローゼンと調印した文書(西・ローゼン協定)には、日露両国政府は韓国(1897年、朝鮮は国号を大韓と改めた)の主権および完全な独立を確認すると明記された。こうして、日本政府は、今度はロシア政府を相手に、朝鮮の独立を確認する念押し外交を展開することとなったのである。

日露戦争が始まってまもなく、日本政府は韓国政府と日韓協約を結び、同国への影響力を強めたが、その協約においてもなお依然として韓国の独立および領土保全を日本は確実に保証することと明記していた。

しかし、日露講和条約(ポーツマス条約)には、韓国において日本が政治上、軍事上、経済上卓絶した権利を有し、指導・保護・監理にあたることを露国政府が認めることが明記された。日露戦争が始まってまもない時期の閣議決定によれば、日本にとって韓国の存亡は日本の安危(日本の国防あるいは安全保障と言い換えられるであろう)に関わる重大事であり、日本以外の国が韓国を併合するような事態を受け入れることはできないという判断が下されていたのである。

その後、1910年8月、日本の強要により、韓国併合条約が結ばれ、韓国は日本の植民地<sup>g</sup>となった。日本政府は、韓国の独立性について、念押し外交を展開する必要を自ら消し去ったのである。

上記の日韓基本条約において、日韓両国政府は、1910年8月以前に結ばれた条約はもはや無効であることを確認した。しかし、韓国併合条約がそもそも無効な条約であったかどうかの解釈については、日韓両国政府において見解の相違がある。それに関して、2015年12月の日韓両国政府の合意に関わる共同声明において、念押し外交が行われたことをうかがうことはできない。

今日、韓国では、韓国併合条約とそれ以後の日本の朝鮮半島支配について、合法性を認めない見解が根強い。

さて、もう一つ、念押し外交の例を取り上げてみよう。それは、第二次世界大戦末期、ポツダム宣言受諾をめぐって日本政府と米国政府との間で交わされたや<sup>h</sup>

## 日本史

りとりにおいて見ることができる。

1945年7月、米英中3カ国の首脳が署名し発表したポツダム宣言は、対日降伏勧告を含んでいた。そのなかには、降伏後の日本について、日本国民の自由に表明する意志に従い平和で民主的な日本が築かれるということが記されていた。これに対して、日本政府はいわゆる国体護持、すなわち昭和天皇と天皇に関わる制度が敗戦後もこれまで通り保たれることを確認するために、それを米国政府に打診した。これに対する米国政府の回答は、降伏後、日本国の最終的な形態は日本国民の自由に表明する意志により決定される<sup>1</sup>として、ポツダム宣言の趣旨をくりかえすにとどまったのである。その後、昭和天皇のポツダム宣言受諾の判断(一般に、聖断と言われている)が下され、日本は敗戦を迎えることとなった。

敗戦色の濃いなかで、日本政府は、ポツダム宣言の受諾をめぐる<sup>k</sup>、米国政府に対して必死の念押し外交を試みたのであった。しかし、勝利をほぼ手中にしていた米国をはじめとする連合国は日本に肩透かしをくわせたのである。

朝鮮の独立をめぐる<sup>1</sup>念押し外交を展開してきた台頭著しい日本と、未曾有の敗戦を前に、せめて国体護持だけは確保したいと念押し外交を試みる瀕死状態の日本と、その違いはあざやかである。よく知られている通り、降伏によって日本は朝鮮を含むすべての植民地を失うこととなるが、これについて日本政府が念押し外交を行うことはなかった。

このように、今日のさまざまな事象を過去の類似したものと結びつけて、その意味をあれこれ考えることも歴史を学ぶ意味の一つと言えそうである。

問1 下線部aの情勢に関して、このときの日本側の外務大臣を、以下のア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 池田勇人      イ 園田直      ウ 岸田文雄      エ 松岡洋右

問2 下線部bの情勢に関して、このときの日本の内閣総理大臣を、以下のア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 片山哲      イ 芦田均      ウ 鳩山一郎      エ 佐藤栄作

問3 下線部 c の条約に関連して、その前年の1875年に日本の軍艦が朝鮮側を挑発し戦闘におよんだ事態を何というか。それを解答欄に漢字で答えよ。

問4 下線部 d の情勢にもっとも関係の深い語句を、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |                 |          |
|-----------------|----------|
| ア 義和団事件(北清事変)   | イ 太平天国の乱 |
| ウ 東学党の乱(甲午農民戦争) | エ 西安事件   |

問5 下線部 e の時期に関連して、その時期から時間的にもっとも遠い内閣を、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |             |              |
|-------------|--------------|
| ア 第二次松方正義内閣 | イ 第三次伊藤博文内閣  |
| ウ 第一次大隈重信内閣 | エ 第一次山本権兵衛内閣 |

問6 下線部 f の政府にもっとも関係の深い語句を、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |             |              |
|-------------|--------------|
| ア 山県・ロバノフ協定 | イ 石井・ランシング協定 |
| ウ 桂・タフト協定   | エ ハル＝ノート     |

問7 下線部 g の情勢にもっとも関係のうすい人物を、以下のア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |         |        |       |        |
|---------|--------|-------|--------|
| ア 小村寿太郎 | イ 寺内正毅 | ウ 桂太郎 | エ 小磯国昭 |
|---------|--------|-------|--------|

問8 下線部 h の情勢に関連して、誤っているものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 沖縄県において地上戦が行われた。
- イ 東京をはじめ国内各地への空襲が激化した。
- ウ 日本の同盟国であったドイツに次いでイタリアも降伏した。
- エ 日ソ中立条約の有効期限内にもかかわらずソ連が日本に宣戦布告を行った。

## 日本史

問9 下線部 i の政府の内閣総理大臣は誰か。その人物名を解答欄に漢字で答えよ。

問10 下線部 j の天皇に関して、誤っているものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 皇太子であったときに、ヨーロッパを視察したことがある。

イ 皇太子であったときに、病氣療養中の大正天皇の譲位により天皇となった。

ウ 天皇在任中、二・二六事件に際し、反乱軍の鎮圧を命じた。

エ 天皇在任中、いわゆる人間宣言を発した。

問11 下線部 k の情勢に関連して、正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア <sup>あなみこれちか</sup>阿南惟幾陸軍大臣は、ポツダム宣言の受諾に反対し、戦争継続に固執した。

イ 高橋是清大蔵大臣は、国内の混乱を懸念して、ポツダム宣言の受諾に反対した。

ウ 加藤高明外務大臣は、ポツダム宣言の受諾に賛成した。

エ 斎藤実海軍大臣は、ポツダム宣言の受諾に対する態度を明確にしなかった。

問12 下線部 l の情勢に関連して、誤っているものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 学童疎開が行われた。

イ 傾斜生産方式を採用した。

ウ 食糧配給制度は十分に機能していなかった。

エ 理化学研究所における原子爆弾の開発計画はすでに挫折していた。

(白 紙)